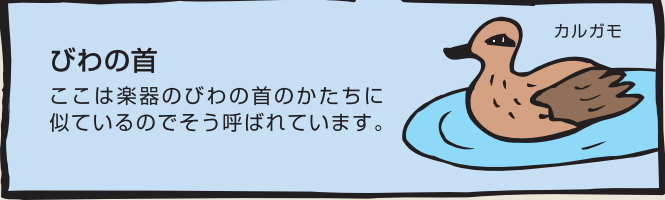




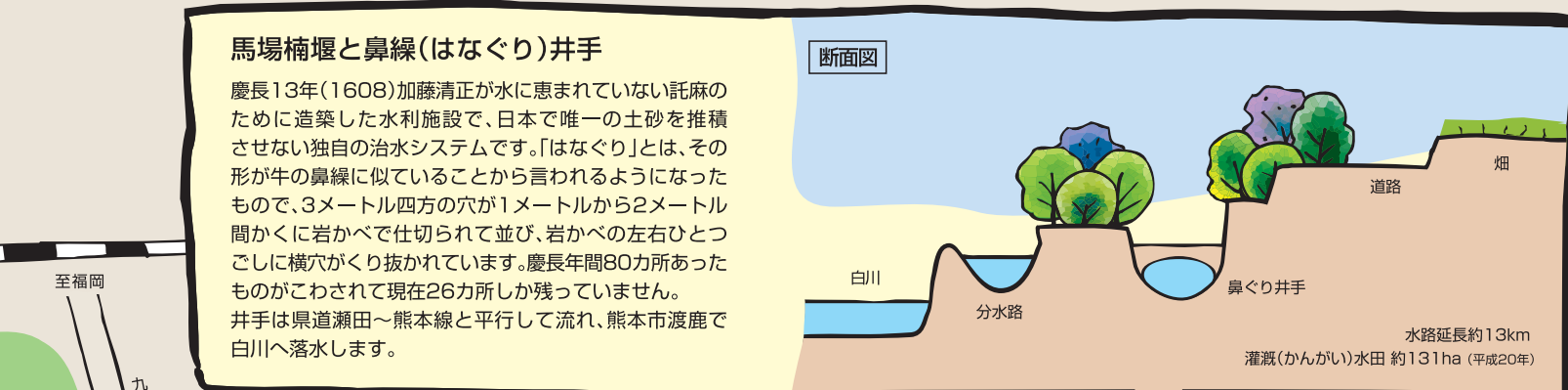
### 片彦瀬

片彦瀬には昭和35年まで渡し舟があり「上南部の渡し舟」と呼ばれてみんなに親しまれていました。



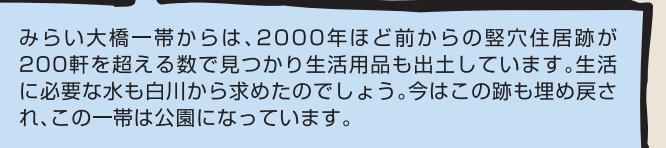
### びわの首

ここは楽器のびわの首のかたちに似ているのでそう呼ばれています。



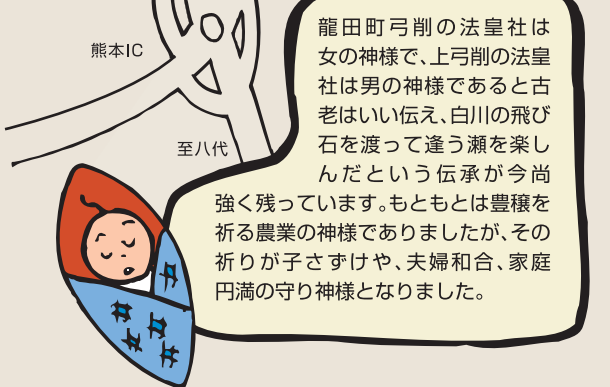
### 馬場楠堰と鼻線(はなぐり)井手

慶長13年(1608)加藤清正が水に恵まれていない託麻のために造築した水利施設で、日本で唯一の土砂を推積させない独自の治水システムです。「はなぐり」とは、その形が牛の鼻線に似ていることから言われるようになったもので、3メートル四方の穴が1メートルから2メートル間かくに岩かべで仕切られて並び、岩かべの左右ひとつごとに横穴がくり抜かれています。慶長年間80カ所あったものがこわされて現在26カ所しか残っていません。井手は県道瀬田～熊本線と平行して流れ、熊本市渡鹿で白川へ落水します。



### 津白橋上流の「上津礼の川施餓鬼」

説明文からは、白川中流域の歴史の一部を知ることができます。古くから水田地帯として栄えながらも、水難、人畜の悪疫に悩まされ村全体が移住したこと、また現在もお施餓鬼供養が行われていることがわかります。

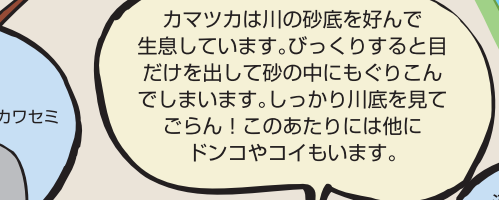


### 龍田町弓削の法皇社は女の神様で、上弓削の法皇社は男の神様であると古老はいい伝え、白川の飛び石を渡って逢瀬を楽しんだという伝承が今尚強く残っています。もともとは豊穰を祈る農業の神様でありましたが、その祈りが子さすけや、夫婦和合、家庭円満の守り神様となりました。

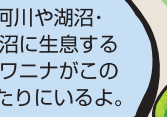


### 上井手堰と上井手(堀川)

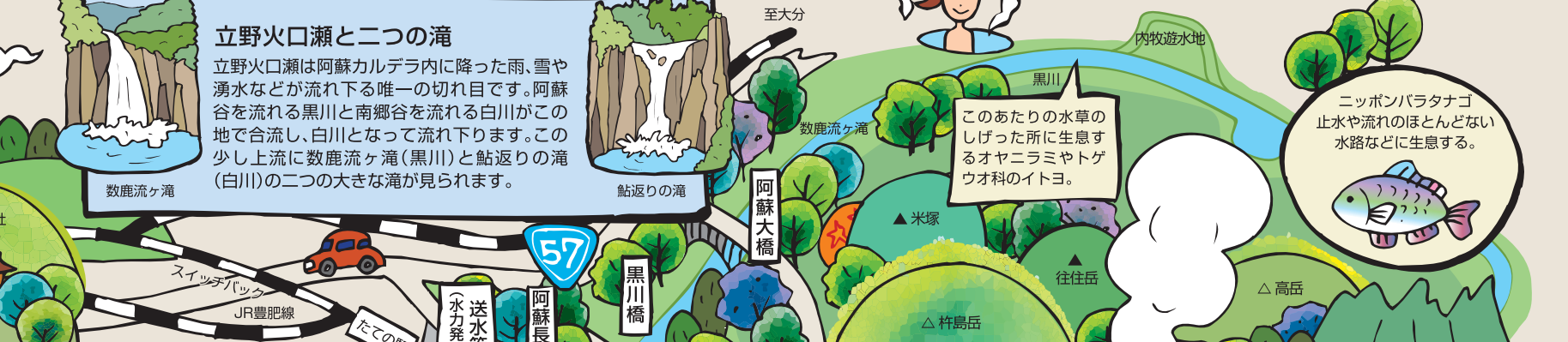
堰は、加藤清正により構想、その子忠広から工を起し、細川の代に坪井川まで完工しました。それにより、白川北がわの平地に多くの水田が開かれ、田んぼは潤われました。菊陽町原水からは「堀川」と呼ばれ、米を運ぶ水路としても利用されたようです。



カマツカは川の砂底を好んで生息しています。びっくりすると目だけを出して砂の中にもぐりこんでしまいます。しっかり川底を見てごらん!このあたりには他にドンコやコイもいます。



河川や湖沼・池沼に生息するカワニナがこのあたりにいるよ。



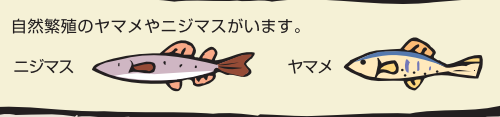
### 立野火口瀬と二つの滝

立野火口瀬は阿蘇カルデラ内に降った雨、雪や湧水などが流れ下る唯一の切れ目です。阿蘇谷を流れる黒川と南郷谷を流れる白川がこの地で合流し、黒川となって流れ下ります。この少し上流に数鹿流ヶ滝(黒川)と鮎返りの滝(白川)の二つの大きな滝が見られます。



### 白川の上流に生息する魚たち

ドンコ、ウナギ、スッポン、オイカワ(ハエ・ハヤ)、その他に、アブラメ(タカハヤ)・ドジョウ・メダカなどが住んでいます。

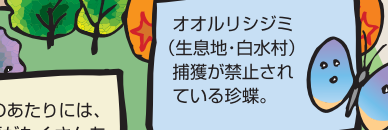


### 自然繁殖のヤマメやニジマスがいます。

ニジマス、ヤマメ



ニッポンバラタナゴ 止水や流れのほとんどない水路などに生息する。



オオルリシジミ(生息地・白水村) 捕獲が禁止されている珍蝶。



このあたりには、水源がたくさんあって、ゲンジボタルが見られます。



ここは川の水がとってもきれいだからサワガニがすんでいます。



このあたりには、水源がたくさんあって、ゲンジボタルが見られます。